【出演者紹介と雅楽について】

出演者 多度(たど)雅楽会 (http://www.tadogagaku.com/)

上げ馬神事で有名な多度大社の歴史は古く、その雅楽は、奈良時代に記録があり、江戸時代に雅楽を愛好した松平定信の後裔が桑名藩にて継承しました。多度雅楽会は、その由来ある三重県桑名市と東京都江東区を拠点として、雅楽を普及継承する団体です。

国名勝庭園を舞台にした「六華苑 舞楽会（春・秋）」、松平定信を顕彰する「東京の新春 雅楽公演」及び「富岡八幡宮例大祭奉納（夏）」を定期開催しています。

「文化芸術による創造のまち」文化庁支援事業（平成19-20年度）に指定されるなど、子供たちに雅楽の音楽や舞を伝える活動を続けています。特に古式を復興した春秋定演は、芸術文化振興基金などの助成で格調高く、近年、伊勢神宮のある三重県をPRする活動にも参加しています。

雅楽の特徴

現存する世界最古のオーケストラとして、宮中雅楽は世界遺産にも登録されています。

唱歌と和声

雅楽の真髄は楽譜や文字に表現できないものがあり、口伝によって師匠の姿勢や発声を直に伝えることが重要です。その稽古では仮名の譜面に節をつけて歌う唱歌を暗唱します。唱歌は、音程と拍子（間と強弱）を意識しながら、曲のメロディーを腹式呼吸で歌います。

曲の速さは厳密に決まっておらず、演奏者が自ら演奏呼吸を音や体の動きを他の演奏者に示しつつ、他の演奏者の演奏呼吸も予測しながら演奏することで、全体として調和して形成されます。

音階も、口伝らしく5つの指で数えられる5つの音が基本です。これを五度和声(ごどわせい)といい、西洋音階に近い音で「レ（壹越調(いちこつちょう)）・ミ（平調(ひょうぢょう)）・ソ（雙調(そうぢょう)）・ラ（黄鐘調(おうしきちょう)）・シ（盤渉調(ばんしきちょう)）」となります。

楽曲の構成

雅楽の曲や舞は、「序(じょ)・破(は)・急(きゅう)」の三部で構成されます。西洋音楽の楽章に相当しますが、雅楽では、時の流れを拍子や曲調で表現しています。

無拍節の「序」は無秩序な基調曲、長拍節の「破」は秩序ある主調曲、短拍節の「急」は躍動ある残調曲で、これらは、ゆったりとした延(のべ)拍子で始まり、次第に軽快な早(はや)拍子になり、古代人の宇宙観や人生観を、音楽や舞で伝えています。

舞楽の構成

楽曲に合わせて豪華絢爛な装束で舞う舞楽は、渡来人や遣唐使などの伝来をもとに形成され、平安時代の王朝では、舞楽を上演する正方形の舞台を造り、左方（唐楽(とうがく)）と右方（狛楽(こまがく)）に分けて交互に舞う「舞楽会(ぶがくえ)」に発展しました。舞台の左右に、太陽（龍）と月（鳳凰）を表す大太鼓(だたいこ)を配置することが最高の格式とされます。

舞の装束は、宮中儀式にて常用のもののほか、舞ごとに装束が異なる別様(べつよう)があります。すべて刺繍によって装束ごとに定められた文様が施されています。